

戦略的かつ優先的に取り組む 3つのプロジェクト

人口減少対策プロジェクト



人口減少を緩和するとともに、人口が減少する中で地域の活力を維持するため、人口減少対策の取り組みを推進します。

基本方針

希望する人が安心して子どもを
生み育てられる環境をつくる

ライフステージに応じて切れ目なく
支える取り組みを推進します。

転入・転出による人の流れを変
える

特に若者や女性の定着促進と転
出者の将来的なUターン促進に
向けた取り組みを推進します。

住み続けたいと思うまちをつ
くる

地域の魅力を向上させ、いつま
でも住み続けたいと思うまちづ
くりを推進します。

健康 幸都市プロジェクト



生活の質の向上と健康寿命の延
伸を図るため「健康さばやし
21（第三次）」に沿った取り組
みを推進します。

基本方針

個人の行動と健康状態の改善

生活習慣の改善、生活習慣病の
発症予防・重症化予防、生活機
能の維持・向上に関する取り組
みを推進します。

社会環境の質の向上

健康増進や幸福感の向上に向け
て市全体で支える環境づくりを
推進します。

ライフコースアプローチを踏ま
えた健康づくり

胎児期から高齢期まで、ライフ
ステージに応じた健康づくりの
取り組みを推進します。

産業活性化プロジェクト



豊富な農畜産物や魅力のある多
様な資源を生かし、オール小林
で本市の産業活性化に向けた取
組みを推進します。

基本方針

働き手の確保

ワーク・ライフ・バランスが実
現できる魅力ある職場づくりを
推進します。

生産性の向上

働き方改革支援などを通じて、
地域全体の生産性を高める取
組みを推進します。

所得の向上

地域資源を生かした稼ぐ力を強
化する取り組みを推進します。

働く場の確保

安定した雇用を確保し、経済循
環の確立に向けた取り組みを推
進します。

目指す将来都市像（スローガン）

『みんなでてなむ 笑顔あふれる

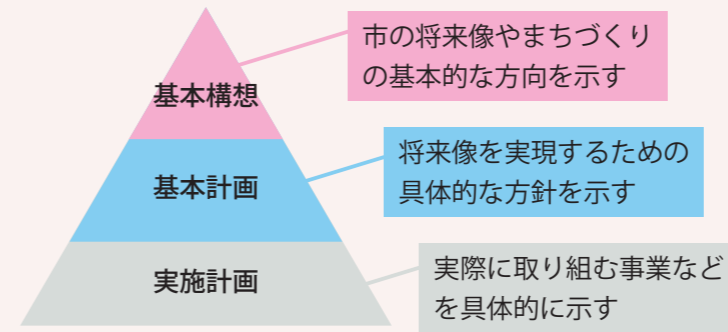
じょじょんよかところ 小林市』



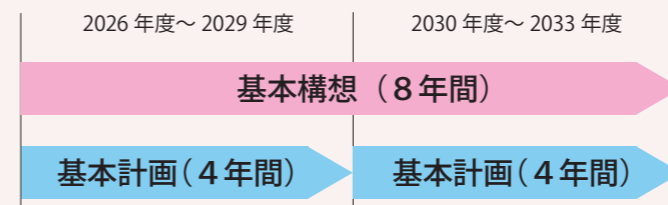
「てなむ」＝「一緒に」という意味の西諸弁。
支え合いや交流を表します。
「じょじょんよかところ」＝「とても素晴らし
いところ」という意味の西諸弁。住んでよい
まち、来てよいまちを表します。

総合計画のしくみ

総合計画は、3層構造で作られています。上の層から将
来像、方針、具体的な取り組みとなっています。



計画期間



●問＝企画政策課
Tel 23-0456

みんなを描く 小林市の未来 第3次小林市総合計画がスタート

今後さらに進む人口減少

全国的にも人口減少が進む中、小林市も例外ではありません。国勢調査によると、小林市の人口は、令和2年時点で約4万4千人。昭和60年時点では約5万4千人だったことから、35年間で約1万人減少しています。さらに、市の推計によると少子高齢化や転出者数の増加などで令和22年には約3万4400人まで減少することが見込まれています。

人口減少が進む中でも、社会保障費や公共施設の老朽化対策経費等の増大で、市の歳出は増加傾向にあります。こうした厳しい現状を踏まえて、「持続可能性」を主な基本方針にした第3次小林市総合計画を策定しました。

第3次小林市総合計画とは

第3次小林市総合計画とは、今後小林市をどんなまちにしていくのか、そのために何をやっていくかなどを定めた、いわば小林市の未来をデザインした計画です。

第2次小林市総合計画を通して、全地域でまちづくり協議会等のきずな協働体が設立されるなど、協働によるまちづくりが広がりました。

今回の計画では、こうした取り組みを大切にしながら、今後さらなる人口減少、少子高齢化の進行を踏まえ、持続可能な小林市を目指します。

市民一人ひとりが主役

持続可能な小林市を実現するためには、行政だけではなく、市民一人ひとりが主役となり、地域や団体などがそれぞれ役割を担いながら協力して取り組んでいく必要があります。互いに支え合い、知恵や力を持ち寄ることは、地域の課題に対応し、将来にわたって安心して暮らせる小林市につながります。

まずは、自分が住んでいるまちがどんな課題を持っているか、今後どんな政策や事業を行っていくのかを知り、計画の実現に向けて、できることから取り組んでいきましょう。

自分たちでもまちづくりに参加できると実感

「小林高校の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい」。そんな思いから、2年生の時に絆を結ぶ物語実行委員としてミニワークショップに参加しました。ミニワークショップでは班ごとに分かれ、市をより良くしていくための意見を出し合いました。母校の入学人数や市の人口が減っていたこともあり、どうすれば人が訪れ、まちの魅力を知ってもらえるのかを考え、観光スポットを増やす案や著名人を使ったPRなどを提案しました。



絆を結ぶ物語実行委員としてミニワークショップに参加
しんでみず れんと
新出水 蓮人 さん (18)

母校への思いからまちづくりに参加

「小林高校の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい」。そんな思いから、2年生の時に絆を結ぶ物語実行委員としてミニワークショップに参加しました。ミニワークショップでは班ごとに分かれ、市をより良くしていくための意見を出し合いました。母校の入学人数や市の人口が減っていたこともあり、どうすれば人が訪れ、まちの魅力を知ってもらえるのかを考え、観光スポットを増やす案や著名人を使ったPRなどを提案しました。

「小林高校の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい」。そんな思いから、2年生の時に絆を結ぶ物語実行委員としてミニワークショップに参加しました。ミニワークショップでは班ごとに分かれ、市をより良くしていくための意見を出し合いました。母校の入学人数や市の人口が減っていたこともあり、どうすれば人が訪れ、まちの魅力を知ってもらえるのかを考え、観光スポットを増やす案や著名人を使ったPRなどを提案しました。

まちづくりを考えるきっかけに

これまでボランティア活動に参加したことはありませんでしたが、同世代の人たちと意見を出し合い、自分の考えを伝える機会はありませんでした。だからこそ、今回の経験はとて貴重で、まちづくりを考える良いきっかけになりました。また、自分の意見がまちづくりにつながるかもしれないと思うと、これまで以上に市への関心も高まり、まちづくりへの思いが強くなりました。こうした機会があることで、学生でも自分の意見を持ち、まちづくりについて考えるようになると思います。



小林中学校生徒会役員としてグループインタビューに参加
かわはた ゆうや
河畑 勇也 さん (15)

意見を伝えることで主体的な考えが増えた

市のことを考え伝えることの大切さを知る
中学2年生の時に、生徒会役員としてグループインタビューに参加しました。インタビューでは、衣食住や学びの環境などについて質問され、自分の意見を伝える貴重な機会となりました。最初は緊張しましたが、質問に答えることで考えが整理でき、考えを深めることができました。感じていきます。この経験をきっかけに、小林市について主体的に考えるようになり、小林市のことを考えるようになった気がします。

市の一員として小林市を盛り上げる

学校は、市内の高校に進学します。高校でも自分の意見を伝えられる活動に積極的に参加し、探究活動にも力を入れていきたいです。また、2年後に開催される宮崎国スポ・障スポでは、ボランティアとして参加し、小林市を盛り上げていきたいと考えています。これからも、地域の温かさや人とのつながりを感じられる、そんな小林市であってほしいと思います。

自分たちの声がまちづくりに

市民と一緒にまちづくりを進めていくために、市民の声を生かした総合計画の策定に取り組んできました。市民アンケートやワークショップなどを通して、小学生から高齢者まで幅広い世代からたくさんの意見が寄せられました。(右の二次元コードから寄せられた全ての意見がご覧いただけます)



まちづくり市民アンケート

まちづくりに対する市民の意見を把握し、総合計画の実現を目指すために基本構想の満足度を調査しました。

- ◆対象 市内の16歳以上の男女2,000人(無作為抽出)
- ◆方法 紙、WEBによる回答

満足度の数値が高かった項目

- ・美しい自然が残り、いつまでもおいしい水が飲める
- ・今後も小林市に住み続けたい
- ・安心して住めるまちである など

若者からの提言

市内の小中高生に、授業の時間やミニワークショップで小林市の問題点や今後どんなまちになってほしいかなどの意見を出してもらいました。

- | | |
|---------------|--------------|
| 絆を結ぶ物語実行委員会 | ミラソウ |
| ◆対象 市内高校生18人 | ◆対象 小林高校生15人 |
| ◆方法 ミニワークショップ | ◆方法 市長と対話 |

- | | |
|--------------|------------|
| 未来予想図(こすもす科) | こどもアンケート |
| ◆対象 市内中学3年生 | ◆対象 市内小中学生 |
| ◆方法 市長と対話など | ◆方法 紙による回答 |

こんな意見が寄せられました

- ・子育てしやすい環境づくり
- ・つながる防災(高校生と高齢者)
- ・小林イメージソング(好っじゃが小林)作成 など

パブリックコメント

第3次小林市総合計画(素案)に対し意見募集を行い、これまでよりも多くの意見が提出されました。

- ◆人数 577人(一般2人、高校生168人、中学生407人)
- ◆件数 929件(一般5件、高校生196件、中学生728件)

こんな意見が寄せられました

- ・高齢者と若者のふれあいの場を作る
- ・祭りなどのイベントを増やす
- ・地元で働ける仕事、企業を増やす など

グループインタビュー

より正確な市民ニーズを把握するために、関係課から推薦のあった団体に対して、関係する分野ごとに分かれてグループインタビューを行いました。

- ◆対象 市内の48団体、延べ63人
- ◆方法 基本構想の項目を中心にインタビュー

こんな意見が寄せられました

- ・宿泊施設や観光インフラの充実
- ・美しい自然のPR拡大
- ・空き家の活用
- ・子どもたちがスポーツに取り組みやすくなるような環境づくり
- ・医療体制、教育、雇用の場の充実
- ・若者が活躍できる場所づくり
- ・コンパクトシティを目指したまちづくり など



小林市総合計画等審議会
倉田 富夫 会長

小林市総合計画等審議会は、総合計画に関する事項を調査・審議するために設置されており、各種団体からの推薦や公募による委員16人で構成されています。

今後も、よりよい小林市の実現に向け、総合計画に基づく市の取り組みについて評価・検討を実施していきます。

人口減少を重点課題に計画づくり
総合計画は、今後さらに進む人口減少を踏まえ「持続可能性」を主な基本方針にしています。人口減少は、あらゆる分野に影響する重大な課題のため、人口の維持に取組みながら、関係人口や交流人口を増やしていくことが重要です。そのため、子育て支援の充実など、定住を促す施策が一層広がってほしいと思います。

また、将来都市像である「みんなであつなむ笑顔あふれるじよじよん」
よかところ「小林市」の実現に向けて、社会情勢や経済環境等の変化、多様化する市民ニーズを的確に捉えながら、着実に事業が進められていくことを期待しています。

地域一体となったまちづくりを
まちづくりは行政だけではなく、地域全体で盛り上げていくことが大切です。そのためには、行政が事業に取り組みやすい環境を整え、課題を一つ一つ解決していくことが求められます。

今回の計画は、これまでよりも若者の意見が反映されています。これからは小林市を担う世代の声を継続的に生かされることを期待しています。

今後さらに高齢化が進む中、高齢者の活力を生かしながら、若者や子育て世代の意見も尊重し、市民みんなで小林市の未来がつけられていくことを願っています。

まちづくりは誰のもの わたしのもの、あなたのもの、みんなのもの

まちづくりは、計画を作った終わりではありません。計画に向かって、行動していく必要があります。持続可能な小林市を実現していくためには、行政だけでなく、多くの人が関わり、それぞれの立場で力を合わせていくことが大切です。地域の活動やイベントへの参加、身近な人への声かけや支え合い、地域の魅力の発信など、日常の中での小さな行動がまちの元気につながります。

市民一人ひとりが主役となり、未来の小林市を一緒につくっていきましょう。

市ホームページから
第3次小林市総合計画を閲覧できます

▶右の二次元コードから閲覧するか、市ホームページ内で検索してください



市民と一緒につくる まちの姿

市民の皆さまから寄せられた声を生かし、総合計画では4つの分野ごとにまちづくりの目標を定めました。目標は、小林市の未来を描く大切な指針です。目標の実現に向けて、みんなで取り組んでいきましょう。

にぎわい

～人も心もワクワクにぎわうまち～

雇用の創出や所得の向上、情報発信を進め、人が集まりにぎわうまちを目指す思いを「人も心もワクワクにぎわうまち」として目標にしています。

目指すべき状態

- ・子どもから高齢者まで、観光やスポーツなどで訪れる人も、企業も小林に集まってくる状態
- ・水や食べ物、人等の地域資源が活用されている状態
- ・経済的にゆとりがあり、文化にあふれ、道路や施設などのインフラも整備されている状態
- ・働きたい場所があり、仕事と生活のバランスがとれ、働くことに達成感がある状態



いきいき

～健康でいきいきつながり合う笑顔のまち～

つながりを大切にし、いきがいを持って、健康で笑顔で暮らせるまちを目指す思いを「健康でいきいきつながり合う笑顔のまち」として目標にしています。

目指すべき状態

- ・地域のつながりがあり、交流が行われている状態
- ・健やかで心豊かに生活できる状態
- ・高齢者がいつまでも元気で生活できる状態
- ・障がい者が自立し、安心して生活できる状態
- ・子どもや子育て当事者が地域や学校などで見守られ、健やかに育つ環境が充実した状態
- ・必要な時に必要な医療が受けられる状態



まなび

～生涯を通して学び合い育ち合うまち～

一人ひとりが学び合える環境を整え、世代を超えて交流するまちを目指す思いを「生涯を通して学び合い育ち合うまち」として目標にしています。

目指すべき状態

- ・地域と学校が協働で教育に取り組んでいる状態
- ・自ら学びの場に参加し、地域間の交流、世代間の交流が図られている状態
- ・多様な文化・芸術が身近にある状態
- ・ジュニア～社会人～シニアの各ステージで楽しみながらスポーツができる状態
- ・人材や資源を活用し学校等で食について学べる状態



くらし

～豊かな自然と共に安心して暮らせるまち～

交流や支え合いを大切にし、災害時にも安心して暮らせるまちを目指す思いを「豊かな自然と共に安心して暮らせるまち」として目標にしています。

目指すべき状態

- ・子どもから大人まで、みんなが自ら行動でき、助け合える状態
- ・現在の美しい自然が残り、きれいなおいしい水が維持された状態
- ・災害時においても、ライフラインを安心して利用できる状態、火災や交通事故、犯罪の少ない状態
- ・地域の中でコミュニケーションがとれる状態

